

# 救急要請に係る検討会～高齢化社会における在宅医療にも対応した救急体制の構築～ 報告書の概要

## 1 救急と高齢者医療の現状と課題

- 府内の救急件数は平成20年～29年の10年間で約24.5%（京都市約25.1%、それ以外約23.6%）増加。
- 高齢化の進展等により、少なくとも今後10年間は、救急件数の増加が続くと予測。
- 後期高齢者の増加による救急需要の増大や供給側である救急医の担い手不足等が課題。

## 2 課題に対する各ツールの比較と#7119の有効性

- 緊急度判断には㊦救急受診アプリ（Q助）、㊧救急受診ガイド（冊子版）、㊨#7119があり利用者の年代等に応じて各ツールの有効性が認められるが、救急需要増加の要因である「高齢化」、「高い軽症率」、「急なケガや病気の際の不安」に対する事業効果や医療施策との連携等の観点からは#7119も有用。
- #7119には、㊩不安な住民への安心・安全の提供㊪救急医療機関スタッフの負担軽減㊫救急車の適正利用にとまらず、個別相談の特徴を生かし相談者に適した医療施策を案内できるなどの効果も考えられる。

## 3 #7119の事業化に向けた課題

- 先行団体の実績等では#7119導入によって救急搬送件数の減少には至っておらず、#7119の事業効果を高めるためには各ツールを組み合わせた有機的活用及び電話相談プロトコールの作成が必要。
- コールセンターの運営費は過大なため、事業の効率化等によるコスト低減が不可欠。
- スケールメリットや医療施策との連携等の観点から府内一円での事業実施が望ましいが、需要の増減に地域差がある

## 4 救急関連事業の展開と効果的な広報

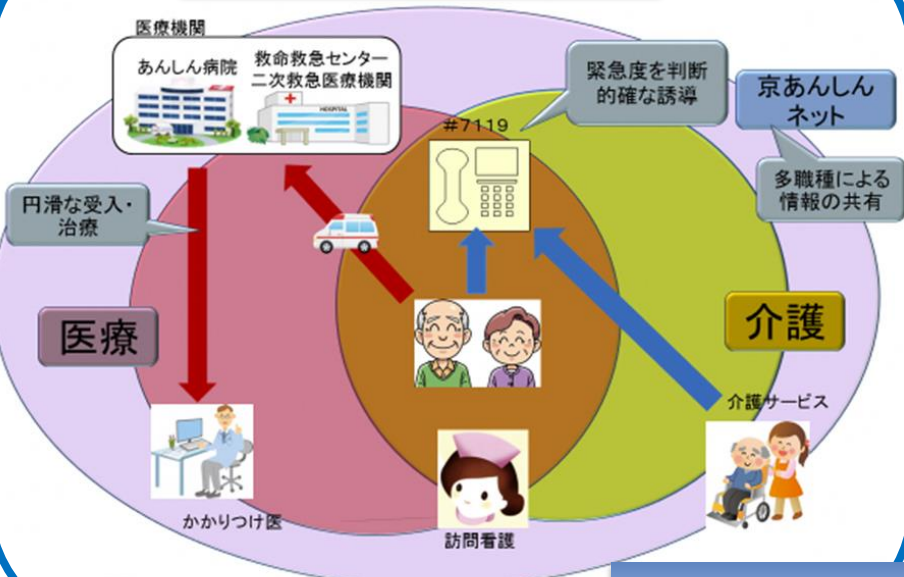
- セーフティーネットとなる#7119を中核に据えた場合は、若年層には救急受診アプリを、高齢者本人、介護者、介護予防段階の方等に救急受診ガイドを普及させ、救急受診ガイドは#7119の広報ツールに活用も可能。
- #7119は、府内の救急搬送人員の6割を占める高齢者層への利用促進や、健康寿命の観点から介護予防の段階の方への周知も必要。

## 5 まとめ

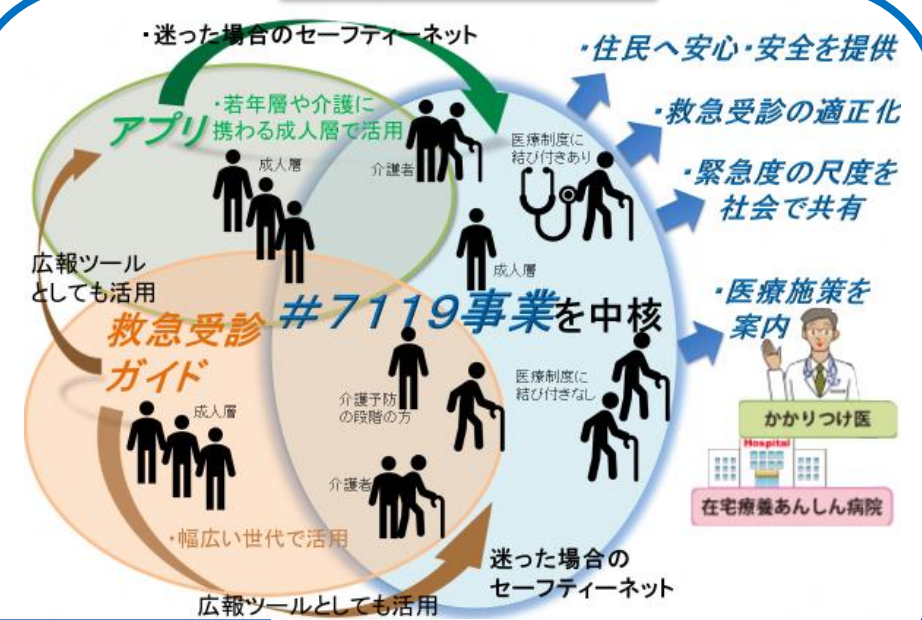
- 緊急度判断できる各ツールのメリット・デメリット等を検討し、中でも#7119は有用。
- #7119は、府内の全ての市町村にとって具体的なコストメリットを見出す必要があるため、各市町村における参画の合意形成に要する期間を十分に考慮し、事業の全体像や開始時期については早期かつ慎重に見通しを持つべき。
- 今後、各ツールの有機的活用による事業展開、既存事業である#8000との整合連携、電話相談プロトコール、検証方法、効果的な広報等の具体的な検討を進め、事業効果を高めることが必要。
- 高齢者が安心して在宅療養できるよう、「かかりつけ医」や「在宅療養あんしん病院」と連携し、地域包括ケアを推進することが必要。

# 救急要請に係る検討会～高齢化社会における在宅医療にも対応した救急体制の構築～ 報告書の概要

## #7119の高齢化社会 の中の位置付け



## 各ツールの関係性



## 事業実施に向けた今後の枠組

30年度

救急要請に係る検討会  
(委員13名)

事業化に向けた具体的な検討

31年度

救急要請に係る検討会(親会)

- ◆委員構成
  - ・医療・地域包括・行政の分野
- ◆検討項目
  - ・事業の制度設計
  - ・効果的な広報
  - ・実施後の検証体制 ...等

情報共有により  
整合性を確保

緊急度判定プロトコール専門部会

- ◆委員構成(医師等)
- ◆検討項目
  - ・プロトコール(電話相談の手順書)を策定
  - ・救急受診ガイド等の検討

◆ 検討会委員名簿(13名)(敬称略)(五十音順)

	太田 凡	(京都府公立大学法人京都府立医科大学大学院医学研究科教授)
	北川 靖	(一般社団法人京都府医師会副会長)
	小池 薫	(国立大学法人京都大学大学院医学研究科教授)
	甲田 由美子	(公益社団法人京都府介護支援専門員会常任理事)
	島崎 千尋	(一般社団法人京都府病院協会理事)
	鈴木 秀三	(京都府消防長会救急部会長)
会長	高階 謙一郎	(一般社団法人京都府医師会救急担当理事)
	武田 隆久	(一般社団法人京都私立病院協会副会長)
	團野 一美	(一般社団法人京都府訪問看護ステーション協議会副会長)
	中島 すま子	(公益社団法人京都府看護協会専務理事)
	中島 光雄	(京都府消防長会会長)
	橋本 武也	(一般社団法人京都市老人福祉施設協議会副会長)
	藤田 良一	(一般社団法人京都府老人福祉施設協議会副会長)

◆ 事務局

- ・ 京都府 (府民生活部災害対策課, 健康福祉部医療課)
- ・ 京都市 (保健福祉局医療衛生推進室医務衛生課, 消防局警防部救急課)

◆ 開催経緯

回数	開催日	主な議題
第1回	平成30年 9月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化の現状や進展, 高齢化社会における医療の現状と課題</li> <li>・ 救急要請前の#7119等の緊急度判断ができる手段の紹介</li> </ul>
第2回	平成30年 10月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救急要請前の緊急度判断ができる手段 (#7119や救急受診アプリ等)の有効性について</li> </ul>
第3回	平成30年 12月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ #7119の諸課題</li> <li>・ 府内における各手段の取組状況</li> </ul>
第4回	平成31年 2月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 府内消防本部への#7119アンケート調査結果</li> <li>・ 電話相談プロトコール</li> <li>・ 各事業の展開</li> <li>・ 効果的な広報</li> <li>・ 事業実施に向けた今後の検討の枠組 (情報提供) 上手な医療のかかり方を広めるための懇談会について</li> </ul>
第5回	平成31年 3月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告書の取りまとめ</li> </ul>